

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	小城市立砥川小学校
1 前年度 評価結果の概要	昨年度は、全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童80%以上に対して、4段階評価で肯定的な回答をした児童は、12月88%、1月97%、2月93%、3月93%となり、概ね達成していると考えている。 今年度も『今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校』を目指し、子どもたちが安心して過ごすと共に、学習面（授業等）や学校生活全般（学校行事等）において主体的に活動し「学校が楽しい」と思えるように、全教課程を通して取り組みを継続していく。
2 学校教育目標	夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 「動僕力行」 ～たくましく しなやかに～
3 本年度の重点目標	「今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校」※全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童85%以上／行事に「やりがい（達成感）」を感じる職員85%以上 「一心一徳」「異体同心」で ○ 魅力的で笑顔に満ちた児童を育てる ○ 魅力的で活気に満ちた教職員になる ○ 魅力的で家庭や地域に愛される学校になる

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研究の推進による授業力の向上	○主体性を問うアンケートで肯定的な回答をする児童80%以上	・意欲を育む指導と評価の充実を図る。 ・話し合い活動の工夫や授業のUD化を図る。	A	・話を聞く項目だけでなく意見を考えた書き添えした項目も下・学年ともに90%に達した。校内研を通して行った授業のUD化の効果があったと考えられる。伝える項目も前回の結果80%から80%弱まで向上したので、聞き手を育てるなどの話し合い活動の工夫を継続していく。	A	・学習状況調査の意識調査の結果で、「普段の生活で幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」と「友達関係に満足しているのか」の項目の値が高くてよかった。 ・学習状況調査の学力の結果は全体的に低いようで少々心配している。日々の学習指導で一つ一つ付けていけるようにお願いしたい。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○一人1台端末の有効活用	○Googleclassroomを活用した授業を行い、肯定的な回答をする児童80%以上	・ICT機器や情報の活用力をたかめる。 ・一人1台端末を活用した授業や環境を構築する。	A	・児童のアンケートでclassroomへの肯定的回答が99%であった。職員がclassroomを有効活用し、児童も効果的に使っている実感があることが分かる。今後も継続して活用方法を職員間で共有していきたい。	A	・インターネットと上手に付き合うことができるか心配。情報モラル教育は保護者と共に行うことが大切だが、講演会への参加が少ない等、家庭の危機管理意識が低いことが気になる。	・情報化推進リーダー ・学力向上対策コーディネーター
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動すること、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートにおいて、思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が85%以上	・道徳教育、人権・同和教育を核としながら、教育活動全体を通して、自分のよさや可能性を認識させるとともに、あらゆる他者を尊重する態度を育てる。	A	・児童のアンケート結果が約95%に達した。人権教室の実施や、平和集会の実施、あふれさせたい言葉、なくしたい言葉を各クラスで考えたことにより、人を思いやる意識が向上したと考えられる。	A	・砥川小校区は、地域に根差した要で育てる体制が整っている。命を大切に、思いやりの心をもつ、社会性や倫理観をもつ等、子供たちの健やかな成長のために地域住民の一人として協力していきたい。	・特別活動部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○学校評価アンケートにおいて、いじめ防止対策等のための取組について組織的な対応ができていると回答した教員80%以上	・定期的な心のアンケートや法によるいじめの定義の職員への徹底を図り、児童が安心・安全な学校生活が送れるようにする。	A	・年間を通して、心のアンケートやいじめアンケートの実施、いじめ防止の研修やいじめ防止対策委員会をおこない、職員間で情報交換や組織的な対応を図ることができ、指標としていた80%以上の結果だった。今後も取り組みを続けていきたい。	A	・いじめ問題が1学期末にあっているが、夏休み中にも関わらず、校長のリーダーシップの下関係職員がチームとなって、すぐに対応できてよかった。 ・今の時代はいじめの捉え方も変わっているし、件数も増えてる。いじめの未然防止や早期発見等の取組や保護者への対応等、よくしていただいている。	・生徒指導部
●健康・体づくり	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	・出番、役割、承認のサイクルを意識した取り組みを進め、発達支持的生徒指導の浸透を図る。	A	・よいところを認めてくれると回答した児童は約80%に達した。実施した学校をよりよくするための取組で出番をつくることやほかほかの木で友達を褒め合ったことが結果として表れたと考えられる。 ・目標をもっていると回答した児童は約90%に達した。学期始めに目標を考えさせたり、日々目標（めあて）を意識させながら授業を行ったことで、夢や目標をもつ児童が増えてきたのではないかと考えられる。	A	・フリー参観等で学校に来た時は、子供たちがよく挨拶をしてくれる。学校がとてもよい雰囲気であることが伝わってくる。挨拶や言葉遣いは、社会に出てからとても大切なスキルなので、これからも是非身に付けてほしい。 ・代表委員会で話し合い、子供たち主体で行う「学校をよくするための取組」はとても素晴らしい取組だと思う。	・特別活動部
	○次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で徒歩での登下校時間を含む運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ②学校評価アンケートにおいて、「早寝・早起きができている」「朝ご飯を食べている」と答える児童が80%以上 ③「健康に良い食事をしていく」肯定的な回答をする児童80%以上	①生活カードに毎日運動をした時間を記録し、運動をすることを動機付けする。 ②家庭と協力し、「早寝・早起き・朝ご飯」の取り組みの徹底を図る。 ③給食センターの栄養教諭や養護教諭と連携し、食の大切さを理解させる指導を行う。	B	・1日1時間以上運動をしている児童は、6月より17.3%増加し、88.9%になった。6年生の声掛けにより、休み時間以外で遊ぶ児童が増えたことが考えられる。 ・「朝ご飯を毎日食べている」に肯定的な回答をした児童が、6月より16.2%増加し、93%であった。その中のややあてはまるに回答した12%の児童を中心に改善していきたい。「早起きしている（7時前）」児童が、0.9%減少し、74.8%だった。定期的に行っている、「早寝・早起き・朝ご飯シート」を引き続き活用し、早寝に対する意識付けを行っていく。 ・「好き嫌いをせず食べている」児童が、70.7%であった。栄養教諭の定期的な給食訪問や、外部からの出前授業の活用などによって、食への関心を高めることができた。	B	・早寝、早起き、朝ごはん等の基本的な生活習慣が整うことは、子供たちが健やかに成長するうえで欠かせないことだが、そのような家庭力の力が弱まっている気がする。PTA組織等を通して家庭への呼び掛けもしていきたい。 ・地域に昔からいる人からは、コロナ禍で午前中開催になった運動会の一日開催を望む声もあるが、実際には難しいところ。運動習慣の定着や地域コミュニティの活性化にもつながるが、熱中症による命の危機、学校だけではなく子供や家庭への負担を考慮しなければならない。	・健康安全部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・行事や会議を効率的で効果的に削減、凝縮し、子どもと向き合う時間を確保する。 ・家庭・地域に対し、教員の本務に専念できる環境作りへの協力・連携を依頼する。 ・定時退勤日を設け、全員が確実に実施する。	B	・時間外在校等時間は平均28時間で45時間を下回っている。しかし、2名の職員が平均45時間を3～4時間程度超過している。 ・年休取得率は平均12.7日、14日以上取得は13名中7名(53%)にとどまった。	B	・子供たちにとって、先生が笑顔で洗剤していることが何よりの環境である。休める時はしっかり休んでいただき、心身の健康を保持していただきたい。また、管理職には先生方のサポートをお願いしたい。	・管理職
	○働き方改革の本質の徹底	○働き方改革の意義を理解し、メリハリをつけた業務の遂行ができたという問いに肯定的な回答する職員80%以上	・「ON/OFF」の切り替えができ活気に満ちた状態で働く姿を児童に見せるよう、メリハリをつけた業務遂行を行う魅力ある教員となる。	A	・計画的に業務を遂行した（メリハリをつけた）という問いに肯定的に回答を職員は91%だった。働き方改革振り返りシートでは、「提示退勤日の実行」と「スクラップできる業務の模索」が課題点となる。	A	・運動会やマラソン大会等、以前のように行いたいという一部の地域の声もあるが、学校（職員や子供たち）の負担を考えると現実的ではないと考える。	・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実と拡散	○学校評価アンケートにおいて、特別支援に関する専門性が向上したという問いに肯定的な回答をする教員80%以上	・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案により、支援を要する児童への個に応じた対応を徹底する。 ・全職員で全児童を育てるために、児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・職員研修の実施により、インクルーシブ教育の視点で通常学級でも個別の支援を行える教員となる。	A	・特別支援に関する専門性が向上したとする問いに肯定的な回答の教員の割合は80%を超えた。 ・大和特別支援学校の巡回相談やエリアリーダーを招聘して助言をいただき、個に応じた支援の在り方を深めることができた。 ・管理職のリーダーシップと、担任の子どもの見取り、保護者との連携により、小城市の教育支援委員会につながることができた。	A	・特別支援学級在籍児童数が増える中、子供サポーターの増員は見込めないのだろうか。情緒面に不安定さを抱える児童への対応で、職員の疲弊にもつながるのではないかと。	・特別支援教育コーディネーター

評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	取組内容	成果指標（数値目標）		達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○地域との連携	○地域との連携による互恵性のある教育活動の創造	○「地域の方と一緒に活動は楽しい」に肯定的な回答をする児童80%以上。 ○「地域の教育的資源や人材を活用した」に肯定的な回答をする職員80%以上。	・地域連携室との連携により、学校を開き、地域の力を活用して児童が生き生きと学習できる環境を構築する。 ・児童が地域の方に感謝する機会をその都度設け、地域も活性化する方途を探る。	A	・総合的な学習の時間を始め、生活科、社会科等を通して地域と関わる活動を設けた。もちつき会での感謝の会、カラフル集会、3学期のありがとう集会等の行事も充実させた。 ・「地域の方と一緒に活動は楽しい」に肯定的な回答をする児童90%、「地域の教育的資源や人材を活用した」に肯定的な回答をする職員92%となった。	A	・砥川小学校校区は以前より地域のつながりが強く、地域で学校を支えようという住民の思いも強い。八幡神社の「宮座」の歴史は古く、脈々と受け継がれている。子供たちにとっても、学校外で多くの大人と関わり、様々なことを指導してもらったり、逆に喜んでもらったりするのはよい経験になっていると考える。	・管理職
○他校との交流	○南九州市立宮脇小学校とのオンライン交流	○砥川の良さや自分たちの活動を発信できたことと回答する4年生と6年生の児童80%以上。 ○交流の効果に肯定的な回答をする関係職員80%以上。	・交流地域の歴史や文化、特徴などに関心をもつとともに、ふるさと砥川の良さを発信していくことで、誇りと愛着を深める。	A	・交流会は2回実施した。6年生は砥川小の修学旅行における平和学習について発表し、4年生は宮脇小からの発表を聞いた。互いに発表や交流を行うことで、それぞれのよさを認め合い、誇りや学校、地域への愛着をより一層深めることができた。	A	・小さな学校で関わる人間が少ない子供たちにとって、他校と交流できるのは素晴らしい取り組みだと思う。是非続けていただきたい。	・管理職 ・4年・6年担任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	<p>【総合評価】</p> <p>・全体成果指標「学校が楽しい」と思う児童85%以上に対して、「学校が楽しい」と回答した児童89%、「楽しく学校に行っている」と回答した保護者91%となり、達成したと考える。また、全体成果指標「仕事にやりがい（達成感）を感じる」職員85%以上に対して、「仕事にやりがいを感じる」と回答した職員83%、「校務分掌等を通じて学校運営に関与している」と回答した職員100%、「強みを活かして参画している」と回答した職員75%となり、概ね達成したと考える。</p> <p>【次年度への展望】</p> <p>・全体成果指標では、「大切な自分・大切なみんな」を合い言葉に自分にとっても周りの人にとっても安心して安全に過ごせる学校を目指し、自己肯定感や自己有用感の向上を掲げていく。 ・評価項目「健康・体づくり」では、重点取組内容として特に「望ましい生活習慣の形成」に力を入れ、家庭や地域と連携しながら、基本的な生活習慣等の改善に努めていく。 ・一人一人の職員の家庭の事情や働き方に寄り添いながら個別に対応し、仕事に対するやりがいや達成感を高める共に、心身共に健康に過ごせる職場環境をより一層目指す。</p>
---------------------------	---